

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひめさゆり)

事業所番号	0672300431		
法人名	山形小木医科器械株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6		
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 5 日	開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームの理念に基づき、利用者と共に生活し、利用者の支援者であるという自覚を持って関わっている。理念の実現にむけて、毎月ケアを振り返り、目標を設定し、実施している。
 ・遊びレーションなどを取り入れたレクリエーションや体操で心身のリフレッシュを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな町の中心に位置し、明るく開放的な事業所は、地域の人々との交流を大切にし地域の一員として、利用者の地域社会での生活の継続に配慮した支援を行っている。また、職員は、利用者らしさを大切にし、ゆったり、楽しく、本人本位に温かく支えている。そこには、利用者の自然で明るい笑顔が溢れ、一人ひとりの思いを大切に過ごすことの出来る温かいホームである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21 年 12 月 8 日	評価結果決定日	平成 22 年 1 月 13 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を掲示しているが、実践までは全らず。全体会議で理念の共有の為の勉強会を行った結果、理念をふまえたケアを意識するようになってきた。理念の一人ひとりを大切に・・・を実践すべく、カンファレンスを通してケア方針を共有するようにしている。	地域との交流や関わりを大切に、その人らしく、ゆったり楽しく過ごせるよう事業所独自の理念を掲げている。また、会議の場で唱和し共通の認識を深めるとともに、毎月の行動目標を定める際の原点としてサービスに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内、地区の行事に参加している。散歩時は近所の方に挨拶したり、買い物時店員さんや知り合いの方に声を掛けられるようになった。	多くの利用者は、利用前からの生活の延長上に今があり、地域とのふれあいをそのまま継続している。また、様々な行事等を通じて双方向的な交流が行われており、地域の中の一員として利用者の暮らしを支えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町の認知症サポーター養成講座に参加し、認知症の方を地域で支えるまちづくりの啓発に努めている。事業所の広報へ認知症や健康に関する情報を載せている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター長、地域区長、民生児童委員協議会長、家族代表が参加し、定期的で開催している。メンバーは推進会議の意義や役割を理解し、積極的に意見をしてくれる。会議ではメンバーの意見を反映すべく取り組むように努力し、又取組みの内容経過を報告している。	町役場と併設の会議室を利用する等、様々な立場のメンバーが参加しやすいよう工夫し、活発な議論がなされているが、参加者の都合等により開催頻度は年4回程度に留まっている。	運営推進会議は、外部の人々の多角的な視野を通じ改善課題についての意見交換や、地域からの理解を深める貴重な機会である。参加者を複数依頼する等、参加者個々の負担軽減を図り、定期的で開催されることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の取り組みや実情は折りに触れ伝えている。特に施設職員だけでは解決困難な事例に関しては、市長村の担当職員へも事情を説明し、一緒に関わったり相談にのってもらっている。	様々な機会を利用し、利用者の状況等について報告を行っている。また、支援困難事例等について個別具体的な意見交換を行い、協働しながら解決する等の連携が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	徘徊や不穏等で、離設が考えられる場合は、職員間で声を掛け合い、所在確認や見守りを行っている。又、外出にて気分転換を図ったり、自室にて個別の対応をし、話をゆっくり聴いて落ち着いてもらえるよう対応している。やむをえず危険回避をせざるをえない時は、玄関に鍵をかけることもある。	研修会等を通し身体拘束等排除への理解を深め、職員全員に周知徹底を図っている。また、利用者の意向に沿うよう、寄り添う気持ちを大切にしながら、鍵を掛けず安全に過ごせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について全体会議で勉強会を行った。常に危機感を持ち、目を配りながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行うことによって、利用者等が持っている権利の下、ケアが提供されなければならないことを伝えている。成年後見人制度についても、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は予め家族に時間がかかることを伝え、十分時間を取るようになっている。要所要所で確認する時間を取り、細かい疑問や不安に応えるようにしている。料金が変わったり、本人の状況が変化した際は、個別に話し合いの場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会や面会時、意見や要望を聴き、その後各委員会やユニット会議で話し合いをし、反映できるよう努めている。又、その結果を運営推進会議で報告している。	写真入りのたよりを毎月発行するとともに、面会時や家族懇談会を通じ、率直な意見、要望を伺うようになっている。出された意見等については、会議の場で検討され、周知徹底を図っているが、一部対応が遅れている内容も見受けられる。	家族から、意見箱設置についての要望が出されていることについて、早急に対応し、家族に対しても、さらに開かれた事業所である旨、示していくことを期待したい。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ユニット会議を開き、意見や提案等を話し合っている。又、意見等あれば管理者に聞いてもらうこともある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や職員の勤務シフトに関する意見等を取り入れている。個人の努力や実績などを把握し、評価につなげている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のレベルに応じた研修への参加を積極的に勧め、一人ひとりのケアの質と意識の向上を図っている。研修終了後は全職員に伝達している。新任職員の研修については取り組み中である。	委員会活動を通し、様々な分野の内部研修に力を注いでいる。また、外部研修は、職員の段階に応じ計画的に受講し、その内容の伝達研修も行っている。新任職員には、1ヶ月間のOJT担当者による指導があり、理念に基づくサービスが出来るよう徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交換実習等に参加する機会を作り、ネットワーク作りを薦めている。又、他事業所のイベント等に参加し交流を深めている。	山形県グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との情報交換等を行っている。また、他のグループホームとの交換研修を実施しており、様々な気づきや学びを得て、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話から、生活や心身の状況を聴き取り職員全体把握するようにしている。その上で、不安や要望を聴き、その情報も職員間で共有している。話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や体験談を聴き、家族が求めているものを理解し、話し合える雰囲気作りや連絡等を密に取り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや要望、本人の状況に対して、家族の方がどのようなケアを求めているのか確認し、場合によっては他事業所を紹介している。早急な対応が必要な相談者には、地域包括支援センターにつないだり、担当ケアマネジャーと連携を図るなど、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの知恵等聴きながら、又一緒に行いながら学んでいる。本人から学ぶ姿勢を忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族、お互いの思いを受け止め、本人をどう支えていくか、通院や外出、電話や面会など、役割分担をしている。家族と職員が本人を支えるための相談しあえる関係を築くようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理髪店に出掛けたり、本人の意向、想いを家族に伝え、外出や外泊の相談を行っている。家族や友人が面会に来やすい雰囲気づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の相性を見極め、トラブル等を未然に防ぐようにしている。トラブルの原因を探り、孤立や嫌がられる存在にならないように職員が間にはいるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所してからは、面会に行く日数は少ないが、出会った時は声を掛け合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中、1対1の時間などを利用して、声を掛け、把握するようにしている。意思表示の困難な利用者に対する把握が不十分である。	職員全員が、その人らしさを尊重する気持ちを大切にし、センター方式アセスメントの長所を活用しながら思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報収集し、利用者の意向に沿うよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族の方に話を聴いている。又、入所後も本人の話等から情報収集し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないところと最初から決めつけるのではなく、生活の中で、一緒にやってみるようにしている。新たな能力の発見の際は、記録に残し、情報を共有するようにしている。一人ひとりの生活のリズムも、記録に残し、職員で把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、話し合いを行っている。家族や主治医等とも相談し介護計画作成に活かしている。状況に変化があった際はモニタリングを行うようにしている。	日常的な情報やアイデアを活かしながらチームでの話し合いを行い、介護計画を作成している。しかし、モニタリングは、6ヶ月に1回の場合もあり、新しい情報を介護計画に反映させるには時間を要する場合もある。	利用者等の状況は刻々と変化しており、現状と介護計画にずれを生じることもあるので、モニタリング期間を短縮し、現状に即した視点で確認していくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録し、小さな変化や気付いた点を、スタッフ間で引き継ぎながら実践し、計画の見直しに活かしている。また、出勤開始前の確認を義務付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームに隣接する商店街の方々から入居者の顔を覚えてもらっていることもあり、離設などの際に、連絡を貰うこともある。入居者に合わせた関わり方をしてくれる。商工会を対象にした認知症サポーター養成講座にも参加し、協力を呼び掛けている。運営推進会議においても、民生児童委員協議会の会長や区長が出席し、意見交換する場面がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に入所後も継続して受診している。受診や通院は基本的には家族にお願いしているが、難しい場合は職員が代行している。往診に来てもらっている方もおり、複数の医療機関と関係を密にしている。	利用者と家族の希望するかかりつけ医を、継続して受診している。原則、家族が付き添うが、受診時連絡表を活用し、チームでの情報共有を図っている。また、往診体制も出来ており医療との連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師に気になったことや、変化等相談することをノートに記入したり、口頭にて助言をもらったりと、適切な対応ができるよう相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、定期的に見舞うようにしている。入院中も家族と情報交換するなど状況を確認しながら、速やかな退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、家族、職員が連携を取り急変時に備えている。安心して納得した最期を迎えられるように、随時家族と連絡を取り合い対応している。家族や本人の思いと話し合いの経過が職員間に十分に周知されず、職員間でズレが生じてしまったことがあった。職員が最期を受け入れられる気持ちになる準備が足りなかった。	看取りに関する指針を整備し、研修等を通じ理解を深めているが、家族等からの話が出ない限り終末期に向けた話し合いは、控えている状況である。	関係者等の方針統一が図られぬまま終末期を迎えることのないよう、早い段階から繰り返し話し合いの機会を設け、方針統一が図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を受け、心肺蘇生法について実習し、全職員が対応出来るようにしているが、皆が完璧に身に付いているとは言えない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行い、消化器の使い方等の訓練も行っている。地域の消防団と連携の為話し合いを行っている。	消防署からの協力を得て、夜間や地震等様々な状況を想定しての訓練を実施している。また、救出時に必要な情報も分りやすく整備されている。今後に向けて、自警消防団と地域の消防団との連携のあり方について、地域の消防団の代表者と安全委員会で検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、相手に合わせた対応を行うよう定期的に話し合いの場を設けている。しかし、尊厳の意味するところを理解できていない職員もあり、不適切な言葉使いも見られる。全体会議の中で、尊厳について学ぶ機会があり、具体的な事例を紹介。職員の意識の変化がみられつつある	以前は、親しみのあまり不適切な言葉使いがあったが、全体会議等の場で、人格の尊重や尊厳等について周知徹底を図り、日々のサービスに取り組んでいる。また、個人情報等の書類は、事務所で厳重に保管し、人目に触れぬよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を伺い希望に添った支援を心掛けているが、自己決定出来ない方や希望を表面に出さない方の支援が出来ていない。コミュニケーションを取りながら、働きかけてはいるものの、個別の支援が今後の課題。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの日課や大切にしたい時間は邪魔をせず、見守っている。集団での活動についても参加は呼び掛けるが強制しない。自己主張の苦手な方には時に、職員側の都合(お風呂の順番など)になってしまうこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容院などへは、利用者の馴染みの所へ行っている。希望がない方は、本人の希望を代弁したり、家族からどんなスタイルがいいか毛染めはするかなどを聞いて代弁している。服装に関しては普段はお気に入りの服を毎日来ている方も、外出時は声をかけて、TPOに合わせた服装を支援して			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時折、バイキング方式を取り入れ、食べたい分だけ取れるようしている。又食事の準備など、出来る範囲での役割を持っていただいている。入居者の日課になっている。	献立は、利用者と一緒に考え、ごはん委員会でチェックをしている。買出しや準備、後片付けも一緒に行っている。また、旬の食材や近所からの差し入れも取り入れ家庭的な雰囲気の中で食事を楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分と食事量確認している。1回の食事量が少なくとも1日通して、栄養のバランスが取れるよう支援している。また、摂取出来ない場合は、個人の好きな食べ物や飲み物を提供している。食事形態についても、その人に合わせて刻んだり、お粥にしたり、とろみをつけたり行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夜間は定期的に週1回ポリデント消毒を行い、誤って薬を口にしてしまう可能性が高い方は、職員が預かっている。個人によって義歯を預かって強い不穩に陥る場合は、本人に返し、抵抗のない方のみ預かっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁が目立つ方には、定期的なトイレの声掛けをして、失禁を防げるように、誘導している。	生活リズムパターンシートを用い、排泄パターン等を把握し、さり気ない声掛けや誘導により、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。また、羞恥心へ配慮した対応を周知徹底している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合った排便コントロールで便秘を予防している。日頃から繊維質を含んだ食材や、牛乳などを提供している。散歩や、体操など、体を動かす機会を設けたり入浴時に、腹部マッサージを行い、自然排便が出来るように工夫している。職員全員で排便の把握を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を把握しながら、毎日入浴の声掛けを行っている。一人ひとりの、入りたい時間や都合を聞いて個々に応じた入浴の支援や、仲のいい入居者同士がコミュニケーションを取りながら入浴を楽しめるよう支援している。	利用者の習慣や意向に沿うように支援しており、夜8時まで対応可能である。また、体調に不安のある利用者には機械浴での対応も可能である。時折、入浴剤等を取り入れ、入浴を楽しめる工夫も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、休息をしたり、昼食後の1時間程の昼寝を声掛けしている。眠剤を服用して安眠出来ている方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーなどを個人のファイルに挟んで、薬の作用や種類など内容を把握している。変更などあれば、各ユニットの職員全員が把握出来るよう口頭で引き継いだり、連絡ノートに記入する事を行っている。服用時には、名前を十分に確認して誤薬がないよう注意している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力が発揮出来る場作りを行っているが、数名に偏りがちである。出来ることを探して、声掛け等を行っている。又それぞれの気分転換や楽しみ方法を家族とも協議しながら、散歩や買い物、自宅訪問、電話などの支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の催しもの見学や、家族の協力を得ての自宅外泊などを行っている。お墓参りに定期的に行く方もある。	自家菜園での畑仕事や馴染みの店への買物等戸外へ出かける機会を多く設けている。また、近くにある温泉への外出や一時帰宅、墓参り等希望に応じ、気分転換に配慮した支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人によって自分で財布を所持し、買い物に行ったり、ドライブに出掛けて好きな物を買える環境を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意志疎通が可能な方で、家族との連絡が取りたいという希望があった場合は、希望に添って電話をかけたり、本人にかけてもらったりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアに花を差した花瓶を置いたり、壁に装飾をして、季節を実感できるよう工夫をしている。室内の換気や、温度調節も行っている。	窓からは四季折々の景色を眺めることができ、清潔感のある共用空間には、季節を演出する共同で作った装飾品等が飾られている。また、畳敷きの場所には、家庭的なくつろぎを味わえる炬燵が配置され、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで、皆が楽しく会話出来るよう、スタッフが間に入って話題を提供したり、盛り上げる工夫をしている。一人で静かに過ごしたい入居者の方にも配慮し、自由に過ごせる環境を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、布団など、本人が使い慣れた物を使用している。家に居るときと同じ様な空間で過ごせるような居室にし、掃除等の環境整備も入居者と一緒に行っている。	利用者の希望により、馴染みの家具等を持ち込むことができ、自宅との環境の変化が少なくなるよう配慮している。また、CDで好きな音楽を聴いたり、読書を楽しむ等、思い思いに居心地の良い居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が迷わないよう、居室の扉付近の表札に名前を貼ったり、トイレが分かりやすいように、張り紙を貼る工夫をしている。		